助成事業完了報告書

日本財団　会長　笹川　陽平　殿

報告日付:　2018年5月17日
事業ID: 2016390441
事業名:医療的ケアに対応した
　　地域連携ハブ拠点の整備
団体名:特定非営利活動法人くるみ
代表者名:岡本　久子　　印
TEL:　0766-54-0463
事業完了日:　2018年4月26日

事業費総額	132,350,272円
自己負担額	28,110,272円
助成金額	104,240,000円
助成金返還見込額	0円

1．事業内容(実績。700文字以内):

【契約時】
工事内容　建築工事、エレベーター工事、冷暖房工事他
機器整備　菓子製造、入浴備品、訓練・療育備品他
施設名称　「くるみの森」
整備場所　富山県高岡市佐野548番2
面　　積　敷地面積495㎡　延床面積405㎡
構　　造　木造2階建
施設概要　児童発達支援、放課後等デイサービス提供に必要なスペース、
　　訓練室、地域交流スペース
サービス　児童発達支援、放課後等デイサービス、居宅介護、生活介護
定　　員　55名

【完了時】
工事内容　建築工事、エレベーター工事、冷暖房工事他
機器整備　菓子製造、入浴備品、訓練・療育備品他
施設名称　「くるみの森」
整備場所　富山県高岡市佐野548番2
面　　積　敷地面積495㎡　延床面積437．43㎡
構　　造　木造2階建
施設概要　1階　スタッフルーム、相談室、男女更衣室、食品作業室、飲食製造(仕出し)厨房、
　　菓子製造厨房、研修室、地域交流カフェスペース、多目的トイレ1、トイレ1
　　2階　児童発達支援スペース、放課後等デイサービススペース、調理体験室、
　　防音個室2(音過敏の子ども用)、活動備品室、リハビリルーム、静養室
　　浴室、洗面所、台所、多目的トイレ1、トイレ2

サービス　児童発達支援、放課後等デイサービス、居宅介護、生活介護、
公益事業（赤ちゃん教室、ママサークル、子ども食堂、多職種研修等）
定　　員　67名

2. 事業内容詳細:
添付別紙　＜資料1＞参照

3. 契約時事業目標の達成状況:
【助成契約書記載の目標】
・児童発達支援・放課後等デイサービス提供に必要なスペース等を確保した多機能型事業所を整備（2018年3月までに）
・最大55名定員の多機能型事業所を開所

【目標の達成状況】
・児童発達支援・放課後等デイサービス提供に必要なスペース等を確保した多機能型事業所を整備（2018年3月までに）
→2018年3月までに達成できず、2018年4月20日に完成した。
・最大55名の定員の多機能型事業所を開所
→最大定員67名の事業を2018年7月1日に開所予定。
運営は以下の通り。

<table>
<tr><td></td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td><td>日</td></tr>
<tr><td>多機能型事業</td><td colspan="5">月～金（9:30～15:30）</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>生活介護</td><td colspan="5">月～金（9:30～16:00）</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>放課後等デイサービス</td><td colspan="6">月～土（13:00～17:30）</td><td></td></tr>
<tr><td>居宅介護</td><td colspan="7">月～日（9:00～19:00）</td></tr>
<tr><td>地域交流事業</td><td colspan="4"></td><td colspan="2">地域カフェ</td><td>サークル
子ども食堂等</td></tr>
</table>

【以下詳細】
1.概要　添付別紙＜資料2＞参照

2.成果
① リハビリルーム、訓練備品の整備により、子どもたちの身体機能向上が可能になる
常勤配置した専門の理学療法士が、訓練備品を使用し、子どもたちの身体状況に応じた訓連が日常的に行える機能をもつことができた。
② 食品厨房、菓子製造室、作業室などの整備で、利用児の卒業後の選択肢が広がる
医療的ケアの必要な重症心身障害児は卒業後に仕事を行える選択肢が少ない。
久遠チョコレートを製造販売し、高岡市商工会議所の協力をいただいて企業に使用してもらう、地産地消にこだわったサンドイッチを富山県小児科医会や高岡市医師会の協力をいただいて病院に配達することを今後検討する。
役割分担しながら仕事を行い社会参加することでやりがいを持つ生活を送ることができる。

③　カフェスペースとフリースペースの整備で、地域貢献活動とつながりが拡大する

地域向けのカフェや、お母さんたちのミーティング、週末の赤ちゃん教室やアロマや雑貨つくりなどのイベント、子どもカフェ・子ども食堂などの地域活動、学生たちのアート教室など、多様に活用する。

連携予定は、富山大学小児看護学、富山大学医学部学生サークル「あおい鳥」、福祉短期大学学生ボランティアサークル「ちょこっり」、学生ボランティアサークル「ルアナ」、社会人ボランティアサークル「もりの子クラブ」、NPO法人ひと・みち・まち、NPO法人こどもの園、発達障害児サークル「ぽかぽかサークル」等

④　特性に配慮した空間の整備で、発達障害児の支援環境が整う

発達障害児の感覚過敏に配慮し、視覚的な情報提供を工夫する空間を整備できたことで、落ち着いてすごしやすく、活動の充実が見込まれる。

⑤　障害者雇用の機会ができる

拠点の掃除や整備に、以前放課後等デイサービスを利用していた利用児の障害者雇用を行った。また拠点に近いとの理由から、放課後等デイサービスの指導員には、難病者雇用を行うことができた。

3.失敗した点

- 支援のスペースを確保するため、収納スペースが少なくなった。特に福祉事業所は、5年間の書類保管義務があるが、保管できる収納場所が不足した。
- １階を土足にしたが、床の汚れが目立ち、掃除が大変になった。
- 車いす車両の駐車場確保の関係で、予定していた庭が作れなくなった。
- １月、２月に、近年にない大雪の日が続いた。建築工事も、車両が入れず1日中除雪のことも多く、ぎりぎりで動いていた建築日程がさらに厳しくなった。結果として、事業延長を申請することになった。
- 重症心身障害児も発達障害児も変化の対応の困難さをもつ子が多く、新拠点に行くと泣き続けるなど、抵抗感が予想以上に強かった。

そこですぐの引っ越しはやめて慣らし期間を設けて6月引越しとした。

4.課題と対策

①医療的ケアの必要な乳幼児の利用が少ない

- 医師、看護師、保健師に事業所のことを知ってもらうための活動やPR方法を検討する
- 退院時のカンファレンスに参加できるための事業所の信頼度を向上するため、外部講師などを積極的に引き受け、地域アピールを行う
- お母さんの不安に寄り添い、安心して母子分離ができるための相談機能をもつ

②スタッフの知識や支援力量の向上

- ケアコンサルタントを導入する
- 研修の機会を確保するための人員的な余裕をもつ
- 研修のための経費を確保するための資金をもつ
- 研修内容をフィードバックするための研修報告会やケース会議の時間的余裕をもつ

③質の高い人材の確保
・ 法人の理念を理解し、実践できる人材を県内で発掘する方法と獲得する方法
・ 実際の支援の中から、人権感覚や企画力、人間性を確認するため、学生スタッフを増やし、その中から雇用を検討する

④安定した運営・理念の統一と情報共有
・ 専門家のコンサルティングを導入し、運営の安定や、職員の理念統一を図る
・ 税理士など専門家の意見を参考にしながら運営の安定化を図る

5.今後の展望
【社会資源(サービス、人、ネットワーク、システム等)の創出】
①相談支援事業の開始
在宅生活を支えるためには、母親の心身のサポートやサービス調整、ネットワーク構築などが必要になる。医療や保健と連携するためにも、相談支援員として入院時から関わり在宅生活を支援する必要があると考える。

②ショートステイや緊急時対応
家族が休養をとることや、家族の緊急時に対応することは、在宅生活を継続するためには欠かせない。今回は、経費の関係で宿泊機能をもつことができなかった。今後の展望として、宿泊できる建物と人材、運営できるための体制を整えたい。

③販路の開拓
保健所の製造、販売許可は取得したが、利用者のやりがいや工賃向上のためにも今後久遠チョコレートやサンドイッチの製造販売に力をいれたい。まずは、練習を重ね、地域の試食会なども行い意見を聞いた後、秋頃から協力医療機関である小児科の井川クリニックや、在宅医療のなるせクリニックやなのはなクリニック、近隣の茶谷歯科医院などを対象に販売をしていく。
製造に慣れ、大量に製造する力量がついた後、厚生連高岡病院、市民病院、高岡市急患医療センターなどにも販路を拡大したい。

【事業成果物】
＜資料1＞　建築物、各部屋
＜資料2＞　概要
＜資料3＞　備品一覧
・施設パンフレット

【成果物の名称】
くるみの森

【成果物がアップロードされているCANPANのURL】http://blog.canpan.info/kurumi963/